



総合交通メールマガジン 第15号

平成21年10月1日発行

発行元：国土交通省 政策統括官付 高橋参事官室

目次



Topics

- ・ 広域地方計画の策定について



地域の取組紹介

- ・ IGRいわて銀河鉄道株式会社



Information

- ・ 総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！
- ・ 地域の取組募集！！



編集後記

Topics



広域地方計画の策定について（国土交通省 国土計画局 広域地方計画課）

8月4日、国土形成計画法の制定後初めてとなる広域地方計画が策定されました。この計画は、昨年7月に閣議決定された全国計画を受け、広域ブロックの自立的発展に向け、概ね10年間の地域のランドデザインを取りまとめたものです。この策定に当たっては、国と地方の協働によるビジョンづくりとして、各ブロックの自治体、経済団体、国の地方支分部局等からなる広域地方計画協議会において、地域主導で検討・協議が進められ、また、市町村からの計画提案やパブリックコメントなど多様な意見の反映を図ってきたところであり、これらの成果を活かし決定したものです。各計画を簡単にご紹介します。

- 東北圏では、「豊かな自然の中で交流・産業拠点として発展するふるさと「東北につぼん」」をテーマに、農業の収益力向上や自動車産業等の育成、日本の原風景を体験できる滞在型観光圏の形成を推進します。
- 首都圏では、「世界の経済・社会をリードする風格ある圏域づくり」を目指し、国際ビジネス拠点の強化や産業イノベーションの創出を推進するとともに、国際空港・港湾のゲートウェイ機能の強化を図ります。
- 北陸圏では、「暮らしやすさ日本一」自然と活力にあふれた環日本海交流の中核拠点」を目指し、医薬や繊維等の産業活性化、公共交通を核とした地域づくり、新幹線等を活用した広域観

光交流を推進します。

- 中部圏では、「ものづくりと環境貢献で日本のロータリーとして世界のまんなかへ」を目標に、次世代型航空機の研究開発など産業競争力の強化、生物多様性条約会議を契機とする環境共生社会実現を図ります。
- 近畿圏では、「知と文化を誇り力強く躍動する関西」を目指し、「関西ブランド」の創造や文化交流など文化首都圏を目指した地域づくり、バイオなど次世代産業を創造する「知の拠点」の形成を推進します。
- 中国圏では、「瀬戸内・日本海に臨む基幹産業と里山の資源で創る交流圏域」を目指し、コンビナートの統合的運用など産業の高度化、中山間地域等の暮らしの安心確保、北東アジアとの経済交流を進めます。
- 四国圏では、「癒やしと輝く産業・ひとを育てる四国の創造」をテーマに、森林資源やLED等の世界に誇る技術を活かした産業の育成、瀬戸内や霊場八十八箇所等を活かした個性ある地域づくりを推進します。
- 九州圏では、「東アジアとともに発展し、活力と魅力あふれる国際フロンティア九州」を目指し、半導体・自動車等の産業群や国際的な観光地の形成、海外でも魅力的な農産物等の生産地づくりを推進します。

今後、計画の着実な実施に向け、関係機関と緊密に連携しつつ、ハード、ソフトの両面での取組を積極的に推進していくこととしています。

【各ブロックの広域地方計画についてはこちら↓】

http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/kokudokeikaku_tk5_000029.html

(参考資料) 広域地方計画について：<http://www.mlit.go.jp/common/000046729.pdf>

国土交通省国土計画局ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/index.html>

地域の取組紹介

IGRいわて銀河鉄道株式会社

鉄道沿線の地域が抱える「高齢化」という課題に対して、社員が知恵を出し合って実現したサービスの事例として、IGRいわて銀河鉄道株式会社より、「沿線の『命』を守る鉄道会社として～総合通院サービス『IGR地域医療ライン』～」について紹介頂きます。

IGRいわて銀河鉄道は、お客様への事前アンケート調査により、盛岡市へ通院する高齢者のニーズを的確に分析した結果、「安心」というコンセプトを定め、昨年からはボランティアアテンダントの添乗、企画乗車券「あんしん通院きっぷ」の導入等のサービスを盛り込んだ総合通院サービス「IGR地域医療ライン」を実施しています。サービス開始後も、サービス向上のための見直しを継続して実施し、沿線住民からの支持を高めています。



アテンダントの業務風景



盛岡駅ホームのあんしんのリレー

【 IGRいわて銀河鉄道株式会社の取組概要についてはこちら↓】

<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/0909igr-iwate.pdf>

IGRいわて銀河鉄道株式会社ホームページ : <http://www.igr.jp/>

Information

総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！

総合交通メールマガジンでは、読者の皆様からのご意見・ご要望を踏まえて内容を充実させていきたいと考えています。誌面の感想、取り上げて欲しいテーマなど、どのようなことでも構いませんので、ご意見等頂けると幸いです。様式、送付先については、下記URLをご利用下さい。

URL : <http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/iken-merumaga.xls>

地域の取組募集！！

当室では、情報提供頂いた取組をメールマガジンで紹介することにより、各地域でノウハウ等の情報共有・情報交換ができればと考えており、総合的な交通施策の取組について情報提供頂ける自治体等を募集しています。自薦・他薦は問いませんので、お気軽にご連絡下さい。

【情報提供頂く内容】

例えば、

- ・ 低炭素社会の実現に向け、モビリティのあり方を見直す取組（交通の再編等）
- ・ 公共交通の利便性向上を目指した取組
- ・ 交通の改善により地域活性化を図る取組 など

※ これまでに、推薦頂いたものも含めて32件の取組を紹介させて頂きました。

バックナンバー一覧：

http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/seisakutokatsu_soukou_tk_000005.html



今回の「総合交通メールマガジン」では、国土計画局から、概ね10年間の地域のグランドデザインを取りまとめた広域地方計画について紹介頂きました。また、IGRいわて銀河鉄道株式会社からは、地域の取組紹介として、「IGR地域医療ライン」という総合通院サービスについて紹介頂きました。紹介文からは、鉄道が地域のライフラインとなるべく、成長を続けていく決意が窺えました。

さて今回は、参事官室のT. K. が先日ヨーロッパに旅行した際の旅行記を、以下に掲載します。是非ご覧下さい。

- ・夏休みの休暇に、大枚をはたいてヨーロッパに行ってきました。目的地は中欧の内陸国であるチェコとハンガリー。チェコはビール、ハンガリーはワインの産地として知られており、町の食堂では、昼間から一杯やっている姿が日常の光景として見られます。(写真①)
- ・両国の首都であるプラハとブダペストは、いずれも大河（プラハはヴルタヴァ川、ブダペストはドナウ川）が中心市街地を南北に縦断しているのが大きな特徴です。また、大まかに言うと、川の西岸の高台に権威の象徴（城や王宮）があり、東岸の平地を見下ろす構図になっていることも共通しています。この構図が偶然か必然なのかはわかりませんが、変化に富んだ地形や建造物が、現在格好の夜景スポットになっていることは、見逃せない事実です。(写真②③④)
- ・さて、ヨーロッパでは、公共交通機関として路面電車を思い浮かべる方も多いかと思いますが、ご多分に洩れず、プラハ、ブダペストも路面電車天国です。現在、人口約120万人のプラハでは26系統、人口約170万人のブダペストでは25系統の路面電車が営業しており、どれだけ路線網が発達しているかが窺えます（なお、最盛期の東京では41系統あったそうです）。時刻表もしっかりと整備されており、地元住民だけでなく、観光客にとっても非常に使いやすい交通手段です。(写真⑤)
- ・交通機関間の乗継が容易であることも、観光客が公共交通機関を利用しやすい理由のひとつです。路線図には地下鉄、路面電車、バスの路線が網羅されており、路面電車内の停留所案内には、地下鉄だけではなく、バスの乗継案内も詳細に表示されます。また、一日乗車券を購入すれば、市内全ての地下鉄、路面電車、バスに乗り放題であり、料金の支払いを気にする必要もありません。(写真⑥⑦)

- ・また、両都市には、日本の公共交通にはない大きな特徴があります。それは、何らかの公共交通機関が終夜運転されていることです。例えば、プラハでは、深夜の時間帯には、地下鉄は運行されていませんが、路面電車とバスの主要系統が運行され、深夜の交通を担っています。「両都市より都市規模の大きな東京でさえ、終夜運転は大晦日にしか行わないのに、果たして乗客はいるのだろうか」という、あらぬ心配はありましたが、私にはその実態を確認するだけの体力と好奇心はありませんでした。(写真⑧)
- ・さて、仮に東京で終夜運転を行った場合、多忙なサラリーマンや深夜にわたる飲み会から逃れたい人々が使う常套句「終電に間に合わなくなるので失礼します…」が使えなくなってしまいます。両都市でそのような状況に陥った場合、どんな言い訳を使うのか、現地の人と友達になって聞いてみたいところです。(T. K.)

【写真はこちら↓】

<http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/0909tk-picture.pdf>

【問い合わせ先】

国土交通省 政策統括官付参事官室 メールマガジン担当 小林、近藤

TEL : 03-5253-8111 (内線53-113、53-117)

FAX : 03-5253-1675

E-mail : soukou@mlit.go.jp

URL : <http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/index.html>

